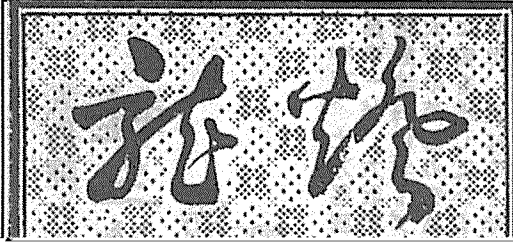


第 89 号



発行所

大阪市史跡 龍溪禪師墓所 霊亀山 九島院

〒550-0022 大阪市西区本田3丁目4番18号

TEL 06 (6583) 2725 FAX 06 (6583) 0908

発行者

第六文化社 南口 穂穂 (代表)

当院は、

九条十

はなぞの
『花園』

⑤景『花園』

無聲川

幾度盃

浪速名

花園橋

(大意)

燈が輝き
ね顔色もま
てきた花浪
楽地花園
かと思案す
ないものだ

尻無川は現大

流れる川で、曾

が今橋辺りから

から櫻川・尻無

正橋・尻無川へ

の千代崎橋から

は、一般大衆を

街で、劇場3、

5、寄席演芸場

な「いろは牛肉
鰻「松重」、西
など、食満南北

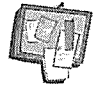
だる

檀家総代補任のお知らせ

第26代穂積和尚への伊職交代に伴い、九島院



㌞
坐



● 九島院に強盗侵入 ●

九島院に強盗が入りました。明治15年の話です。同年2月2日の朝日新聞に次の記事(要約)が載っていました。

本堂へ忍び奪い取った彌陀の尊像、是れさえ有れば大願成就かたじけなしと、一昨夜午前2時ごろ2名の強盗が九島院へ忍び入り、本堂に安置したる如来の立像及び仏殿の金具を台所にあった畚(もっこ一藁や縄などで作った土を運ぶ道具)に入れて、担ぎだそうと山門を出ようとした時、畚の縄が切れて尻餅をつき荷物が転げ落ちた。その音に院主が目覚まし、本堂近くへ駆けつけると、2人の荒男が何やら荷造をしているのを見つけた。強盗だ、いざ踏み込んでとっ捕まえようと手元にあった棒切れを持ち、大喝一声『泥棒!』と叫びながら打ちつけた

強盗は院主の勢いにも屈することなく明晃々の(だんびら一刀のこと)を抜きかざしてきた。院主はその場を引き上げ鐘楼に登って、釣り鐘を激しく撞いたので、寺の小僧や寺男らが駆けつけた。その人数をみて強盗は金具だけを引っさらって逃げ果てた。院主は辛くも難を逃れた本尊の如来さまを恭しく本堂の元の場所に安置し無事を感謝し夜通し読経した。時の住職は18代至頑和尚で、記事によると当時のお寺には釣り鐘のある鐘楼があり、小僧や寺男が複数いることが判ります。

九島院の

奉納便り

- 金拾萬円御寄進 (平成30年7月23日) 里見 充昭様
 - 金伍萬円御寄進 (平成30年8月11日) 山本 和子様
 - 金拾萬円御寄進 (平成30年8月14日) 大内千恵子様
 - 金壹萬円御寄進 (平成30年8月15日) 井上 章 様
 - 金參萬円御寄進 (平成30年12月8日) 某氏 様
 - 金參拾萬円御寄進 (平成30年12月21日) 鈴木美智代様
- 新庫裡建築費用に使わせて頂きます。有難うございました。

編集後記

▼小生の頭部硬
たところ大勢の
戴しました。
さまで、12月6
重はしつつも並
▼陛下の譲位に
り、4月1日に
号は紀元前の中
は現在も公的に
▼飛鳥の「大化
る元号はすべて
熟語が使われて
▼御代替わりに
と「苦」に御心